

～ 金華山を愛で 長良川に憩う
岐阜のひとびとのくらしを未来へ～

— 重要文化的景観 —

長良川中流域における 岐阜の文化的景観



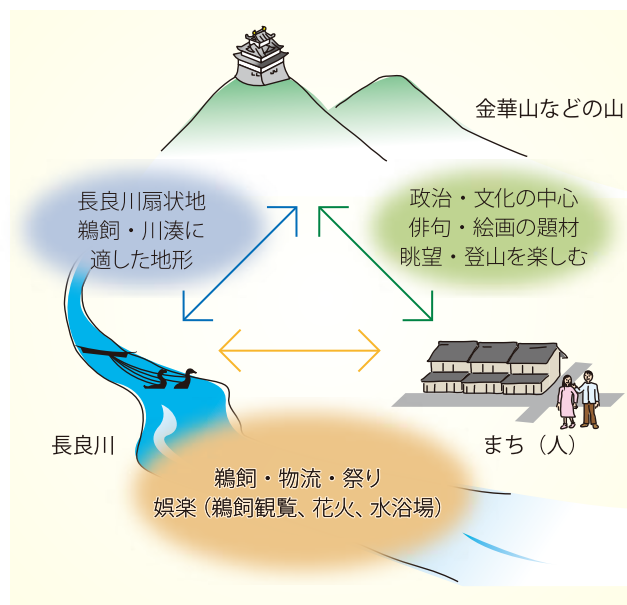
岐阜市

① 岐阜市の文化的景観

長良川は、岐阜市を横断するように東から西に流れ、また市のほぼ中心に金華山が位置します。その周囲の町の基盤は、斎藤道三公や織田信長公などの権力者により、戦国時代から江戸時代までにほぼ整備され、現代に継承されています。

人々は、古くから長良川を物流の主軸、鵜飼の舞台として、また金華山を政治の拠点として利用してきました。

この長良川と金華山、町と人々が一体となって形成してきた長良川流域の文化的景観は、「岐阜市の原風景」ということができます。



岐阜市の文化的景観のイメージ

選定地域の主な歴史

戦国時代	天文4年	1535	長良川が氾濫し、現在の長良川の流路ができる
	天文8年	1539	伊奈波神社が現在地に移転したとされる
	天文年間	1540頃	斎藤道三公、金華山に稲葉山城と城下町建設
	永禄10年	1567	織田信長公が稲葉山城を攻略し、岐阜に改名
	慶長5年	1600	関ヶ原合戦の前哨戦で岐阜城落城
江戸時代	寛永13年	1636	長良川役所が早田村馬場から岐阜中河原へ移転
	元禄8年	1695	尾張藩が岐阜奉行所設置
	天保3年	1832	岐阜大仏完成
明治・大正時代	明治7年	1874	長良川に船橋（明七橋）完成
	明治15年	1882	岐阜公園設置の認可
	明治24年	1891	濃尾地震
	明治43年	1910	岐阜城復興天守完成（昭和18年に焼失）
	大正6年	1917	岐阜公園三重塔完成
昭和時代	昭和14年	1939	長良川の締め切り工事竣工
	昭和31年	1956	岐阜城復興天守再建
	昭和34年	1959	伊勢湾台風による水害
	昭和35年	1960	台風11・12号による水害
	昭和36年	1961	豪雨による水害
	昭和51年	1976	台風17号による水害
現代	昭和60年	1985	長良川中流域が「名水百選」に選定
	平成8年	1996	長良川鵜飼が「残したい日本の音風景100選」に選定
	平成9年	1997	岐阜城復興天守の大改修完了（市民による瓦運び）
	平成23年	2011	岐阜城跡が国の史跡となる
	平成26年	2014	「長良川中流域における岐阜の文化的景観」が国重要文化的景観に選定



「濃州厚見郡岐阜図」承応3（1654）年
（名古屋市蓬左文庫所蔵）
この図に描かれている道路や、両側の町割りのほとんどが現代に継承されている。

地形

長良川は、日本でも屈指の水量と水質を誇る清流です。岐阜県北西部の白山山系周辺の山々を水源として、県下の多くの支流を束ねながら南流し伊勢湾に至ります。市域においては、美濃山地と濃尾平野の境界部分に長良川扇状地を形成しました。

金華山は美濃山地の南西端に位置するチャート層から成る山です。実際の標高は329mとそれほど高くありませんが、北側は長良川に接し、南側は大岩壁によって平野部に接して峻立していることから、標高以上に「高い山」に見えます。

岐阜市の文化的景観は長良川扇状地に立地し、鵜飼屋地区と川原町地区は長良川の堤外地に、旧城下町地区は金華山西麓に形成された町です。



鵜飼屋地区から見た金華山



文化的景観とは

文化的景観とは、地域の自然と日々の生活に根ざした身近な景観です。平成16年の文化財保護法の改正に伴い、新たな文化財として位置づけられ、国は中でも特に重要なものを、「重要文化的景観」として選定します。

現在までに棚田などの農村、海沿いの漁師の町、都市の町並みなど、全国で63件が選定されています。（平成30年10月時点）

《日本各地の重要文化的景観》

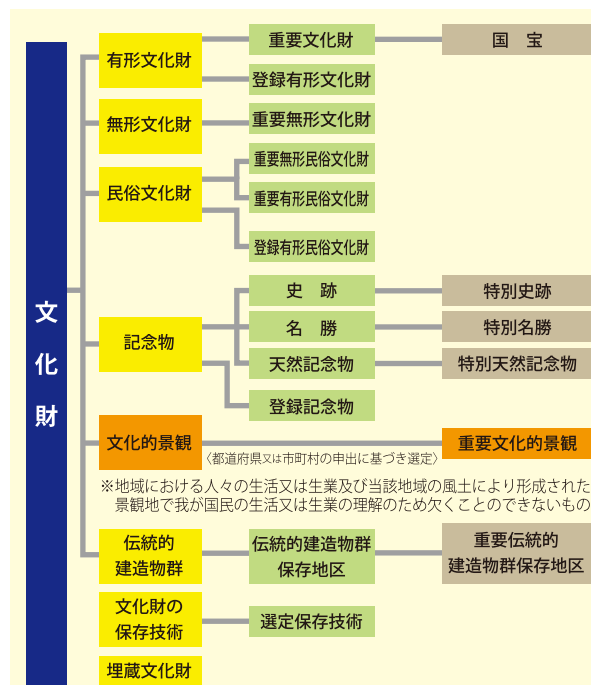


長野県千曲市（農村の景観）
熊本県天草市（漁師町の景観）
京都府宇治市（都市の景観）

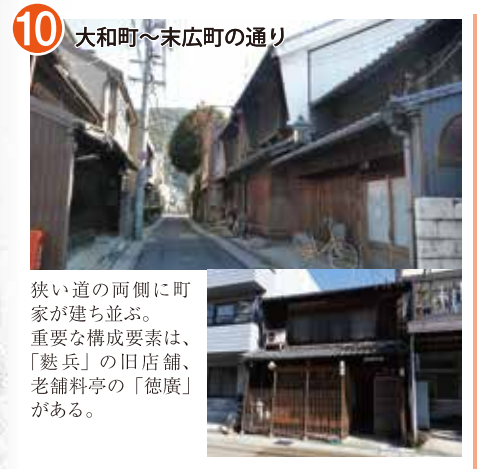
《岐阜市の重要文化的景観の概要》

選定名称：長良川中流域における岐阜の文化的景観
選定日：平成26年3月18日
選定面積：331.9ha
選定地区：長良川地区、金華山地区、鵜飼屋地区、川原町地区、旧城下町地区

※選定区域の中で、文化的景観の価値をよく示すものを「重要な構成要素」という。岐阜市の文化的景観においては、長良川、金華山、道路、水路、建築物などを抽出している。



② 重要文化的景観マップ



- 重要な構成要素（建築物・道路）
- その他の見どころ

「長良川中流域における岐阜の文化的景観」全覧図（昼）
奈良文化財研究所景観研究室 作成（西から描く）



③ 長良川と人々

岐阜の人々は、古くから長良川とともに生活し生業を営んできました。

戦国時代には、道三公とその息子義龍が戦った「長良川の合戦」の舞台となり、関ヶ原の戦いの前哨戦では、西軍と東軍が長良川で対峙しました。

また中河原湊・鏡島湊などの多くの川湊が開かれ、材木、和紙、生糸、薪炭、石などが運ばれました。

長良川では伝統的な川漁が行われ、中でも1300年以上の歴史を誇る長良川の鵜飼は代表的な生業で、現在も6名の鵜匠が



鵜飼漁の準備をする船頭

漁を継承しています。

かつて川は人々にとっての格好の遊び場であり、川を泳いで渡ることは、子供たちの間で自慢のひとつでした。

また現代の人々も、まつり、花火大会など、憩いの場としても長良川を利用しています。今でも長良川は、岐阜の人々の生活の中心になっています。



川まつりの提灯船



年2回行われる長良川での花火大会

④ 金華山と人々

道三公は、1540年前後から金華山の稲葉山城を拠点とし、西麓にあった伊奈波神社や寺社群を町の南部に移転させ、その跡地に居館を建設しました。

永禄10(1567)年、信長公は稲葉山城を攻め、斎藤氏を追放しました。信長公は、この地域を岐阜と改称し、城と館をさらに整備しました。

関ヶ原の戦いの際に岐阜城は落城し、政治の拠点は加納に移ります。金華山は一般の入山が禁止され、尾張藩藩主の鹿狩りなどの場となりました。その後も保護が図られたことにより、現在も多様な生態系や植生を維持しています。

また江戸時代後期以降は、鵜飼の背景として、絵画などの

牧田種麿「長良川鵜飼図」
(岐阜市歴史博物館蔵)

題材になりました。

明治時代になると、金華山は一般に解放され、多くの人々が訪れるようになります。岐阜城復興天守、三重塔が市民の寄付によって建設され、金華山は岐阜のランドマークとして市民に愛され、その魅力を増していきます。

現在でも、毎日多くの市民が山に登り、山頂からの眺望を楽しんでいます。

初代の岐阜城
復興天守

登山を楽しむ人々



金華山山頂から見た夜景

⑤ 町並みと人々

川原町地区と鵜飼屋地区は川に接する堤外地の集落です。

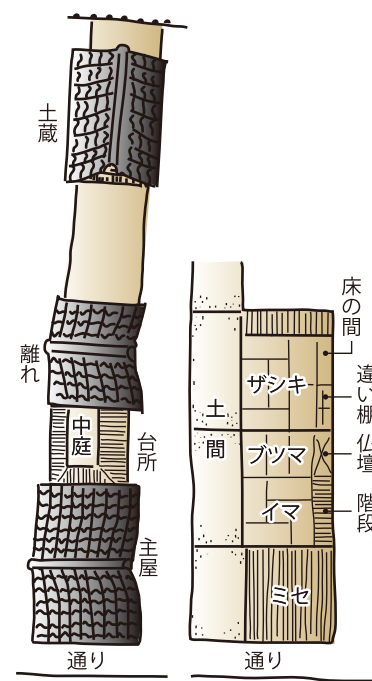
鵜飼屋地区には今も6名の鵜匠が住んでおり、漁を営んでいます。また、地域の家々と川をつなぐ細い路地が数多く通っており、この地区の人々の生活と長良川の距離の近さを示しています。

川原町地区周辺は、長良川の水運と街道などの陸運の結節点として古くから経済活動の盛んな場所でした。

戦国時代、道三公や信長公は、物流の中心となる長良川と防衛機能に優れた金華山に着目し、西側に町(今の旧城下町地区)を整備しました。道三公や信長公は城のある金華山へ向かう東西道路を整備し、そして堀と土塁で町を囲みました。

江戸時代になるとこの地区は尾張藩が治めます。中河原湊付近に長良川役所が移転したことにより城下町は、商業都市「岐阜町」へと発展しました。現在の郡上市や美濃市

といった長良川の上流から材木や竹、和紙などが運ばれたため、岐阜町では問屋業が発展し、さらにそれを利用した提灯・団扇・傘などを製作する手工業が発達しました。そのような生業を支えた町家は、主屋は道路に接し、「う



一般的な建物の配置 主屋の間取り

なぎの寝床」状の敷地の奥に土蔵を配置するのが一般的でした。土蔵には商品や材料が保管されることから、主屋内の土間は、ミセと蔵の間の商品の頻繁な通行を可能にするため広めに造られました。

明治24(1891)年の濃尾地震で町は壊滅的な被害を受けましたが、道路などの基盤をほぼ変えることなく町は復興を遂げました。明治43(1910)年、金華山山頂に岐阜城復興天守が造られると、岐阜の人々は城が見える位置に本座敷や茶室を置くようになります。おそらくそこからの眺めにより、大事な客人をもてなしたのでしょう。

近世の初め頃までには、両側の町割りが形成され、現在もその町割りの中で人々は生活しています。

また、いつごろから始まったかはわかりませんが、地域の人々は、通りに面した家屋の木部を年に数回水や湯で洗います。そのような習慣により、白木の格子の町並みという独特の景観が生み出されました。



土間(右の白い部分がトロッコレールの痕跡)



座敷から眺める金華山と岐阜城



白木の格子が続く町並み



格子の洗い



⑥ 岐阜市の取り組み

これまでの取り組み

年 度	景観行政	文化財行政
平成 7 年度	岐阜市都市景観条例制定	
平成 10 年度	都市景観重要建築物指定開始	
平成 16 年度	景観計画の検討を開始（景観法の公布）	文化財保護法の改正（文化的景観制度開始）
平成 17 年度	魅力アップ！長良川鵜飼文化の再発見事業開始	
平成 19 年度	金華地区景観形成ガイドライン策定 岐阜市景観基本計画策定	文化的景観検討委員会設置
平成 20 年度	長良川流域景観形成ガイドライン策定 ぎふ景観まちづくりファンド開始	文化的景観保存調査実施
平成 21 年度	岐阜市景観条例施行 岐阜市景観計画施行	文化的景観保存計画案策定
平成 23 年度	長良川流域景観形成ガイドライン変更 景観重要建造物指定開始	関係機関・関係団体・所有者との協議 第1次選定申出
平成 24 年度	岐阜市景観計画変更	
平成 25 年度	岐阜市歴史的風致維持向上計画認定 重要文化的景観選定	

今後の取り組み

今後は以下のことに重点的に取り組みます。

- ・調査を継続的に実施し、範囲の拡大や重要な構成要素の追加を行います。
- ・選定範囲内の重要な構成要素について、修理・修景などの整備を行います。
- ・住民とのワークショップや勉強会などを継続して行い、地域の価値を共有します。
- ・文化的景観の価値を岐阜市の内外に広く情報発信します。



ワークショップの様子

また、岐阜の文化的景観において重要な生業である「鵜飼」や、春に行われる岐阜まつりの「宵宮」はいずれも夜に行われます。こうした岐阜特有の「夜の文化的景観」も含めた魅力を未来へ継承できるよう、地域の方々と行政とが協力していく必要があります。

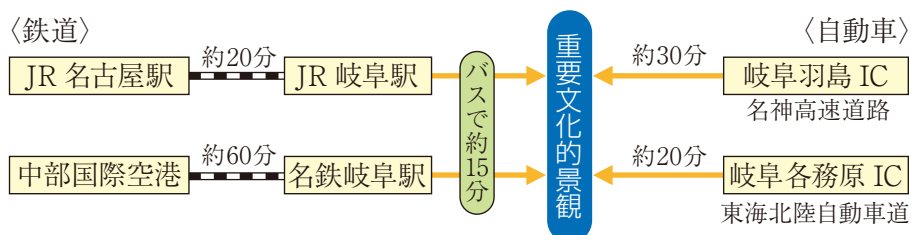


鵜飼と金華山



岐阜まつりの「宵宮」

重要文化的景観へのアクセス



（例）P4.⑥「川原町通」へは… 岐阜バス「長良橋」バス停下車すぐ
駐車場「岐阜公園堤外駐車場」より徒歩 5 分

〔発行〕平成 26 年 7 月
一部改訂：平成 31 年 3 月
岐阜市教育委員会
社会教育課

〒500-8720
岐阜市神田町 1 丁目 11 番地
電話 058(214) 2365